

2021年 日本RC模型グライダー協会（JRGA）理事会 議事録

日 時：2021年2月7日(日) 13:00～16:50

場 所：Zoom 会議

参加者：櫻井理事長（愛知）、濱田（群馬）、宮川（埼玉）、児山、市村（神奈川）、森尾（奈良）、
浅野（大阪）、星島（兵庫）、篠原（香川）、後藤（福岡） 計 10 名

議事

1. 進行役の選任：Zoom 開催となった事から櫻井理事長が事前確認で児山理事に依頼。
2. 橋本会長挨拶：会長欠席につき櫻井理事長が代行
コロナ感染症による緊急事態宣言が出ている状況ですが、年に一度の会合でもあり実施することを検討し、Zoom による理事会として開催させていただきます。
3. 理事会開会宣言：櫻井理事長
理事総数 18 名中、出席 10 名、委任依頼：橋本会長、及び藤田、加納、関根、青木、柳本の各理事、計 6 名。
過半数の理事出席により理事会が成立していることを確認。
4. 書記の選任：櫻井理事長が篠原理事を指名し承認された。
5. 決算報告：濱田理事、浅野監事
濱田理事より会計報告がなされた。
今年はコロナ感染症の影響で競技会が少なく、支出が少ない結果となっています。
主な内訳の説明
収 入：2,358,831 円
支 出： 273,029 円
繰 越：2,085,802 円

浅野監事より、監査の結果相違がないことが報告され承認された。
6. 会員登録状況報告：篠原理事
2021年2月1日時点の有効会員数は118名。昨年2名の新規入会者があったが、17名の減員。
現在の会費納入者はこれまでも継続して納入している方であることから、今後は110名前後での会員数推移となることが予想される。

7. 審議事項

(1) 会報への名簿記載について：篠原理事

JRGA 会報の会員名簿にはこれまで「休会会員含む」として会費未納の会員も載せていた。しかし、会費納入のない方は住所確認が出来ていないことと、既に亡くなられている方もいる可能性がある。そこで、次回からは有効会員のみ（2年以内の会費納入者）としてはどうか。

審議結果：否定意見少数により、次回からは有効会員のための記載とする。

主な意見

- ・少なくすると会の規模のイメージも含めて寂しい気がする。（市村理事）
- ・今後の運営の為に実態に近づけた方が良くと思う。会員を増やす方法として選手権のような大きな大会の入賞者は JRGA 会員であることを明示できないか。（後藤理事）
- ・F3A では下部組織に予選を依頼している。グライダーは連盟としてグライダー委員会があるので、JRGA は個別に表彰するしかないのでは。（濱田理事）
- ・選手権はグライダー委員会で行っているが、F3B の予選は JRGA に委託している。会員の減少は航空連盟も模型連盟も同じ傾向にある。（児山理事）
- ・参加資格については航空協会と話しをする必要がある。今年の選手権では会場にて JRGA 会員確認と入会の実施を試みてはどうか。また、ローカル大会においても継続して参加費減額処置や入会案内を実施して勧誘に努めることにする。（児山理事）

(2) 滑空記章改正案：篠原理事

昨年の理事会で宿題となり、既に理事会メールにて回覧し皆様確認して頂いていますが、最終的な判断として審議願いたい。

審議結果：今年の大会から主催者にて内容を紹介し、実施する。

8. 報告事項

(1) 関根理事からの報告：児山理事代読

主な内容

- ・F3K 世界選の参加メンバー決定。
- ・野田スカイスポーツ公園関連として
昨年 11 月 22 日「空まつり」に HLG 関係者 6 名で参加。近くで観覧できる点と複数人で遊べる点が評価を得られ、日本模型航空連盟としてスカイスポーツ振興会に加盟登録した。これにより、今後野田スポーツ公園の競技会利用を探ってみる。
- ・JRGA 問合せ窓口対応
3 名の問い合わせがあり、2 名は受入れ先クラブが決まり飛行練習中。窓口開設の効果が始まっている。

(2) スロープ競技会：市村理事

昨年は 3 回実施。「イカロス」という F3F 用ソフトがあり、スマホのストップウォッチ機能と連携して競技計測とリアルタイムでの成績共有までできる。

今年も密になることを注意しながら競技会を実施する予定。

(3) 関西：森尾理事

4大会を実施。(2回は前回の繰り越し分)。今年も4回の大会を予定している。

(4) 上里状況：宮川理事

狭いながら、練習会が出来る状態にまで回復。11月29日にF3B練習会を実施。25名参加。翌週にF5J練習会も実施。

(5) 四国：篠原理事

4回計画し、コロナ感染症、天候等の影響で実施できたのはF5Jを1回のみ。今年も4回のイベントを予定。

(6) 九州：後藤理事

台風、地震と続き、競技会はできていない。

平尾台が使えるのはもう少し先。大観峰は牧草関係と観光協会の許可をとっているが、今年は秋のJRGAスロープ大会しか予定が立っていない。

福岡の河川敷を利用してサーマル飛行を行っているが、去年はコロナの関係で福岡河川事務所から控えて欲しいとの規制が入った。今年に入っていないが、飛ばしているのは5名程度。

9. 競技会スケジュール調整：児山理事

事前回覧したスケジュールをもとに説明。

(1) F3J選手権は9月～11月に栃木県小山絹飛行場での開催を予定。

(2) F3B選手権は11月中で茨城県城里の牧草地で調整中。

(3) 岩手、上里は競技会予定なし。

(4) 他は競技会カレンダー記載の通り。

(5) F3B日本選手権に関する主な質疑応答。

- ・F3B会場は事前にテストフライトできないのか。地表とか風向きとか心配。(桜井理事長)
⇒採草地なので、採草者と町と農業関係者と相談する必要がある。(児山理事)
- ・せめて上里メンバー等で会場レイアウト含めて確認した方が良いのではないか。(浅野理事)
- ・レイアウト案をみると横振りした場合に土手に掛かる可能性がある。通行者に通報される可能性もあるのではないか。(後藤理事)
⇒出された意見も考慮して検討する。(児山理事)
- ・選手権実施に対して予選は実施しないのでしょうか。(浅野理事)
⇒コロナの関係と実施時期から考えて予選は実施しない予定。(児山理事)
- ・トイレは移動式をレンタルするのでしょうか。(市村理事)
⇒土手を越えたところに公衆トイレがあります。(児山理事)

(6) 全日本大会冠名称について。将来的にはF3Fの日本選手権として開催したい。(市村理事)

- ・選手権は日本模型連盟の許可が必要だが、全日本等の冠は特に規制はない。(児山理事)
- ・F5Jの例で日本選手権実施を航空連盟に相談した時は、いきなり日本選手権ではなくFAIカテゴリーにそったルールで実績を作った上で日本選手権用のルールを決めて実施。それまでの大会の名称等に規制はないとのことでした。(後藤理事)

- (7) 現時点ではこのカレンダーを進めるとして、コロナの状況等を見ながら追加変更があればまた、今回のようなミーティングを開いて相談しても良いのではないかと。(桜井理事長)
⇒この案で実施することとします。(児山理事)

10. その他 報告等

(1) 会報発行担当の変更：浅野理事

会報の編集・発行作業がひとりに集中しているため担当の変更や役割を分担する等の要望が出された。

結論：①紙媒体による会報発行から HP による会員向け情報発信へシフトする。

- ②HP 内容変更その後のメンテナンスについては現在の HP を構築した長野舞氏に相談することとし、次回打ち合わせ日程を宮川理事にて調整する。他の理事はそれまでに HP の内容、原稿収集方法等について検討しておく。

主な意見

- ・すぐには決まらないと思えるので、夏頃を目途にメーリングリスト等で継続検討とできないか。(児山理事)
- ・編集を持ち回りにする案はどうか。または、今の HP を会員用と一般向けに分けて JRGA としての情報は会員用サイトに表示する形式にしてはどうか。(宮川理事)
- ・専門的な内容も良いが、文章は無くクラブの写真とか新作機等の写真を載せることを考えてみてはどうか。(濱田理事)
- ・その年の話題や主な大会を意識してどのようなテーマの会報にするかを決め、テーマに沿った記事を依頼していた。これを一人で行うのはきつく、せめて複数人でテーマ決め、原稿集めや編集作業を行った方がよいと思う。(浅野理事)
- ・世の中一般的な傾向として紙媒体によるものは減少していると感じる。発行部数も少なくスポンサーも付きにくい。さらに会報を期待して待っている人が何人いるのだろうか、ということも考えると編集担当を変えるのではなく、別の案を考える時に来ているのではないのでしょうか。(後藤理事)
- ・競技会報告のテンプレートを用意すれば投稿がし易くなるのではないかと。(宮川理事)
- ・玄岳 HP は会員で詳しい方が管理している。サーバ維持費と年 4 回の更新費用を支払っている。理事用と一般者用でページを分け、写真は一般会員でも投稿できるようになっている。(市村理事)
- ・会報発行他の費用から捻出すると、年額 20 万円くらいは捻出可能である。(濱田理事)

(2) 航空連盟からの情報：児山理事

航空法改正に関する動向に関して紹介。検討対象となっている主なテーマは下記内容である。

- (1) ドローンの飛行の安全確保をどうするのか。
- (2) ドローンを今後産業にどう活用していくか。

これに伴い発行される規制でラジコンに影響があるのは下記 2 点。

- ① 操縦者のオンライン登録が必要になる。具体的方法と施行はこれからではあるが、法律は既に出来ている。

② リモート ID 装置の搭載義務。こちらはまだ法律を整理している段階。

今の案では 100g 以上の無線操縦できる機体はリモート ID 装置の搭載が必要（飛行高度は関係ない）となる。但し例外扱いが 4 項目でき、その一つで「特定区域内」（補助者の配置等の措置を講じた空域をあらかじめ届け出）を飛行する場合は対象外となる。これにより、クラブで飛行申請した区域を飛行する場合は対象外になる。よって、連盟からの依頼としてはクラブとして事前登録して欲しい。現行の航空法による飛行申請とは別になる。

これら検討中の資料は「内閣官房小型無人機等対策推進室」に上がっている。

また、電波安全協会の HP にクラブ登録のリンクがあり、登録すると、検討状況の情報がメールで送られてくる。

FAI 関連として、F3J、F3F のルール変更は翻訳したものを連盟の HP にアップしている。

また、ジェネラルルールの変更があり、世界選手権への参加国チーム編成として従来の各クラス 3 名の選手とは別に女性を 1 名加えて 4 名とすることが可能となった。

1 2. 次回開催

JRGA の HP 変更および運用についてリモート会議を行う。

宮川理事にて次回打ち合わせを準備。長野舞氏への初回連絡は浅野理事が行う。

その他の理事は打ち合わせまでに HP の内容、原稿収集方法等について検討しておく。

以上